

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|---|---------------------------------|--|-----------|-----------|
| 科 目 名 | 運動と神経のしくみ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 16 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1学年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 203,202 |
| 担 当 教 員 | 勝木 翔平 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 体を支え(骨格系)動かす(筋系)しくみの基本について理解する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 【評価方法】終講試験100% | | | | | | |
| 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 教科書の該当ページを事前に熟読し、また、関連動画がある場合は視聴する。 骨・筋肉の名称について繰り返し復習し確実に覚える。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 筋骨格、運動に関連する機能の正常な働きについて学ぶ。本科目で学習する内容は、ボディメカニクス、病態治療Ⅲや各看護学の展開を考える土台となる。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 骨と骨格の総論について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1)骨格系の機能 2)カルシウム代謝と骨の役割 3)骨芽細胞と破骨細胞の働き | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 頭蓋、体幹の骨格について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1)頭蓋の骨の名称 2)泉門について 3)脊柱を構成する椎骨の名称 4)椎間板の働き | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 体肢の骨格について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1)上肢と下肢の骨の名称 2)骨盤の形の性差 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 関節の構造と種類について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1)関節の名称 2)屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 筋肉の種類と機能について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1)骨格筋、心筋、平滑筋の特徴 2)各筋組織が存在する部位 | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | | |

| | | | | |
|-------------|-------------|--|---------------------------------|--|
| 第 6 回 | 授業を通じての到達目標 | 筋肉の機能について理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1) 骨格筋の収縮に関連する活動電位、等張性・等尺性収縮 2) 神経筋接合部とアセチルコリンの作用 | | |
| 第 7 回 | 授業を通じての到達目標 | 骨格筋の名称と働きについて理解する | テキスト プロジェクター マイク 筋骨格模型 | 予習を行い主体的に授業に参加し、学んだことはその日のうちに必ず復習し理解につなげる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1) 身体の運動と骨格筋 2) 顔面、頸部、背部、胸部、横隔膜、腹部、上肢、下肢の筋 | | |
| 第 8 回 | 授業を通じての到達目標 | まとめ | テキスト プロジェクター マイク | |
| | 各コマにおける授業予定 | まとめ＋終講試験 | | |